

令和2年度 京丹後市防災会議 会議録

- 開催日時 令和3年3月19日（金）午後1時30分～午後2時45分
- 開催場所 京丹後市役所201～203会議室
- 出席者 中山泰会長、藤谷泰彦（高橋亮司委員代理）、水嶋式行（中本晴夫委員代理）、米田均委員、松本なるみ（重見博子委員代理）、涌田和也（志賀定紀委員代理）、中西和義委員、吉岡喜代和委員、池田弘幸委員、川浪隆将委員、松崎和彦委員、畑山穰委員、金田琮仁委員、川口勝彦委員、山崎喜代枝委員、藤井美枝子委員、森祝子委員、山添博史（山崎正夫委員代理）、山崎高雄（森重敬委員代理）
口大野区長 西村誠志郎
- 欠席者 前河秀秋委員、秋山均委員、齊藤治人委員

- 公開又は非公開の別 公開

- 傍聴人 2人

■ 会議概要

1 会長（市長）あいさつ

本日は、年度末を控えて大変お忙しいなか、コロナの緊急事態宣言は明けましたが、まだまだ気を引き締めた対応が必要な中でございますのに、こうして大切な防災会議にお集まりいただき、ありがとうございます。

さて、先週の3月11日、平成23年に発生した東日本大震災からちょうど丸10年ということでございまして、改めましてこの震災でお亡くなりになられた多くの皆様に謹んで皆さんとともに哀悼の誠を捧げます。この未曾有の大災害、まだまだ復旧・復興の過程ではございますが、一日も早い復旧・復興を心から念願するところでございまして、我々としましても教訓とさせていただきながら、風化させずに、災害に強いまちづくりを進めていかなければならないと思うところでございます。

今年度も全国的には令和2年7月の豪雨災害をはじめとする自然災害により甚大な被害が出ているというところでございますし、本市におきましては平成29、30年度と大きな台風・豪雨の災害があったところでございます。加えて、コロナの感染拡大に伴い、これまで想定していなかったような新たなリスクである自然災害と感染症との複合災害への備えも必要となっており、本市におきましても避難所などにおける感染症対策を徹底するためのマニュアル作成、備品調達などに努めて

いるところでは。

さて、本日は、議事としてお世話になります地域防災計画一般計画編、また、震災対策編、あるいは、原子力災害対策編の修正につきまして、この後事務局からご説明させていただきます。こういったものは、令和元年の一連の全国的な災害に係る国の検証結果の反映、避難所における感染症対策、国や京都府の上位計画の修正に伴うものがベースでございます。昨年よりこれらの見直しに着手し、今回、一定の修正案がまとまりましたので、委員の皆様のご意見を頂戴したいと思います。

また、地区防災計画につきましては、今回、大宮町口大野区で大変充実した計画素案を作成していただいておりますので、本日の会議で承認いただきますと本市7地区目の策定となります。

お忙しい中とは存じますが、最後までよろしく願いいたします。

2 会議録署名委員の指名

池田弘幸委員

3 議 事

(1) 京丹後市地域防災計画の修正について（事務局から説明）

- ① 一般計画編の修正 <資料3>
- ② 震災対策計画編の修正 <資料4>
- ③ 原子力災害対策編の修正 <資料5>

<質 疑>

委 員：避難行動要支援者本人による自宅の災害リスクの確認については、誰とするのですか。また、個別支援計画は市内でどれぐらい作成されていますか。

事務局：避難行動要支援者本人で確認できない場合は、その家族。家族でできない場合は、具体化は今後となりますが、ケアマネージャーなどの福祉専門職員などに役割を担っていただきたいと思います。

避難行動要支援者の個別計画の登録者数については、現在1,474人となっています。

委 員：今月京都市内で開催されたBCPのセミナーに参加した際に、アドバイザーの専門家が言われたことですが、10年前の3.11（東日本大震災）のとき、多摩川の橋を渡るのに大渋滞となり、何万人が橋を渡るのが非常に危険だった。大きな地震が起きた時に橋が大丈夫だということを確認しておかないと、人が集中した時に橋が落下することが考えられるので、主要道路の交通確保の際に、橋の安全を一番に確認しておかないとすべての計画が駄目になるということでしたので、頭の中に入れておいていただきたい。

会 長：ありがとうございます。第一に考えないといけないことの一つだと思いま

すが、事務局はいかがか。

事務局：委員の意見を今後に活かしていきたいと思います。

会 長：計画にどう書くのか、書くことがなじむのかも含めて、いずれにしても大切なポイントとして受け止めながら対応していきたいと考えます。

委 員：計画の中に、動物の保護、避難所とかですね。どこかに書かれていますか。

事務局：今回の修正案の中にはありませんが、市地域防災計画の中には家庭動物の保護について、記述されているところはあります。

会 長：どのように記載しているかは答えられますか。

事務局：後ほど報告します。

委 員：防災士を養成促進するということであつたが、各事業所や会社等、また地域の中に消防団がいらっしゃる。区長さんが主なところなんです、先ほどの話によりますと、いろいろ変わってくる場所もあり、育成について、消防団を利用されるのか、どういう状況の中で今これを進めようとしていきますか。

事務局：防災士の資格を取得していただくということなんです、地域の中で防災のリーダーを育てる、養成するという意味で地域の皆さんを中心として防災士の資格を取得していただきたいと考えています。主には自主防災組織を中心として、地域の防災リーダーを育てていきたいという思いで、来年度、防災士の資格の取得の補助を合わせながらリーダーの育成をしていきたいと考えています。

会 長：先ほどの動物の保護の件で報告をお願いします。

事務局：地域防災計画の一般計画編の中に、4 被災動物の保護収容という項目があり、「災害で被災放置された犬、猫等の家庭動物の保護収容等の対策については、府（丹後保健所）、府獣医師会、動物愛護団体・ボランティア等と連携・協力して行う。具体的な対策については、そのつど関係機関と協議して決めるが、おおむね以下をめやすとして行う。

放浪動物の保護・収容

負傷や病気の動物の治療・収容

飼い主が飼養困難な動物の一時保管

被災動物（同行避難した動物数等）の情報把握

飼養されている動物に餌を配布

動物の所有者や新たな所有者を探すための情報収集及び提供

特定動物が逃走した場合、人の危害防止を図るための必要な措置

家庭動物に関する相談窓口の設置

と書かれています。

会 長：避難所における動物の保護についても書かれていますか。

事務局：避難所の計画の中で、「必要に応じ、犬や猫等の家庭動物と同行避難した者の受入体制について検討し、避難場所における家庭動物のためのスペースの

確保に努める。」と書かれています。

会 長：他にないようですので、防災計画修正案につきまして、ご承認させていただいてよろしいでしょうか。

(委員「異議なし」)

会 長：異議なしということですので、京丹後市地域防災計画の修正案を承認させていただきます。

(2) 地区防災計画の承認について（提案者：口大野区長から説明）

<資 料>

- ① 口大野区地区防災計画書
- ② 口大野区地区防災計画書 資料編
- ③ 口大野地区防災計画書 参考
- ④ 口大野地区役員災害初動マニュアル簡易版

<質 疑>

委 員：役職には女性の委員は何名いますか。

区 長：地区の役員の中には現在就任されている方はいません。ただし、外部の協力団体の中には数名いらっしゃいます。

委 員：市社会福祉協議会では、災害時の女性リーダー研修に取り組んでいます。令和2年度はコロナの関係でできませんでしたが、令和2年度は女性リーダーを育成していきたいと考えています。また、市女性連絡協議会がございまして、ここでも災害時の女性リーダーの研修会を開催しております。参考にしていただけたらと思います。

会 長：他にないようですので、「口大野区地区防災計画」をご承認させていただくこととしてよろしいでしょうか。

(委員「異議なし」)

会 長：多数の異議なしの声をいただきました。「口大野区地区防災計画」を承認させていただきます。

(3) その他

な し

4 報 告（事務局から説明）

- (1) 京丹後市国土強靱化地域計画の策定について
- (2) 新型コロナウイルス感染防止に配慮した避難所開設運営について
- (3) 避難所の見直しについて
- (4) 風水害のハザードマップの作成について

(5) 京都府総合防災訓練について

<質 疑>

委 員：今の話とは違いますが、昨年12月に久しぶりに積雪があり、そのタイミングで市内でもコロナの感染者が増えてきたということがあり、建設会社の従業員の家族にも濃厚接触者がいるかもしれないという中で、年末押し迫ったときに除雪の要望があり、もし除雪に出る職員に濃厚接触者が出た時にどう対応しようかという話になり会長と相当話をして、土木事務所長に話に行こうかというところだったのですが、本当にぎりぎりだったので、そのまま行ってしまって別に支障は出なかったのですが、それを考えた時に、除雪に出れないということが考えられる状況があって、どこかバックアップができればいいのですが、今の割り当てでぎりぎりですと、除雪の時間がどんどん遅れていって、もし何らかの災害があったり、救急車や消防の出動が必要であったりしたとしても雪があっていけないだとかそういうことが考えられるということで、どうすればいいのかなということで話が終わってしまったのですが、そういったところ、今もう春になって雪も来シーズンということになりましたが、また来年もまだ感染症の話があるかもわからないですし、ほかの場面で建設業協会と自治体で何等かそのあたりの対応について協議を入れていただけたらと思います。

会 長：ありがとうございます。コロナで濃厚接触者が広がったときに、とりわけ除雪で出てくださっていることと重なったときにどうバックアップしていくかということまではやってなかったので、本当に振り返れば冷や冷やものだったと思います。次のシーズンに向けてはしっかりと備えていきたいと思えます。

5 その他 な し

以上の会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和3年3月24日

委 員